

講義名	経営情報論		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	赤川 元昭		
開講期・曜日・時限	後期 月曜日 3時限	授業形態	
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 福祉マネジメントコース/2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービス心理コース/2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 スポーツ健康マネジメント/2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 サービスマーケティング/2014年度 サービス産業学部		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

<b>主題と概要</b>
<p>コロナウイルスのため、従来の講義形式ではなく、課題学修型の授業（RYUKA Portal の「講義連絡」機能を通じ、教員から提示された小テストやレポート課題の答案を提出する授業）となります。講義再開の場合には、従来のシラバスの内容を踏襲することになります。私の担当講義で従来と特に異なっているのは、教科書を使うことと、授業計画、そして評価の部分です。シラバスを熟読の上で、履修するかどうかを決めてください。</p> <p>コンピュータに代表される情報技術の進歩は目覚しく、20世紀後半以降、われわれの社会を大きく変革してゆく原動力となっている。経営情報論では、学生が情報技術に関する基本的な知識を身につけるとともに、情報技術が企業経営にどのように役立っているのかを理解することを目的とする。なお、当講義は「経営情報システム論（前期開講）」と一対をなす科目であり、情報技術に関する基本的な知識については、主に経営情報システム論で詳しく解説する。このため、情報技術について興味のある学生や、情報技術がよく分からない学生は、あらかじめ、私が担当している「経営情報システム論（前期開講）」を履修することが望ましい。</p>

<b>到達目標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化時代を生きる社会人として、最低限必要な情報技術に関する知識を身につける（たとえば、ごく基礎的な情報技術用語を説明することができる）。</li> <li>・企業の事例を通じて、情報技術が企業活動のどのような局面で利用され、どのように役立っているのかを具体的に述べるることができる</li> </ul>

<b>提出課題</b>
講義時間中に、小テスト、アンケート等を実施する。

<b>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</b>
小テストについては、講義期間内に解答例の提示を行う。アンケートについては、フィードバックは特に行わない。

<b>評価の基準</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト、アンケート、期末試験などをともに総合的に評価する。（期末試験がない場合が十分に想定できます。この場合には、小テスト、アンケートをもとに評価する）</li> <li>・評価の配分は、期末試験が約90%、小テストおよびアンケート等が約10%である。（期末試験がない場合には、小テスト、アンケートをもとに評価する）</li> <li>・ここ数年では、合格者の割合は70%程度、平均点は約70点である。</li> </ul>

<b>履修にあたっての注意・助言他</b>
ごく当たり前のことだが、他の受講生に迷惑をかけるような行為（私語など）は慎むこと。

<b>教科書</b>
経営情報システム(第4版)、宮川公男 中央経済社 3080 9784502091704

<b>プリント資料及び参考文献</b>
参考文献 「栢木先生のITパスポート教室」 栢木厚著 技術評論社

<b>授業計画</b>
<p>1～2 企業経営と情報システム  3～4 情報技術とインターネット  5～10 情報技術と新しいビジネスの展開  11～15 経営情報システムの諸類型</p> <p>参考：従来の授業計画</p> <p>1 はじめに：この講義の概要  2～3 インターネット  4～7 情報技術とマーケティング活動に対する影響  8 人間行動と情報  9 組織活動と情報  10 経営情報システム  11 意思決定支援システム  12 戦略的情報システム  13 システムの計画と設計  14 戦略策定プロセス  15 事例研究</p>

<b>授業形態（アクティブ・ラーニング）</b>
ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

<b>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</b>
予習は特に必要ではないが、復習については、分からなかった課題を理解するために、もう一度テキストを読み返す程度でも、ぐっと理解度が深まるはずである。

<b>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</b>

<b>実務経験の有無及び活用</b>

<b>備考</b>